

大学院学生(平成5年度)

霊長類学専攻

氏名	学年	指導教官	研究テーマ
小林 隆	D4	加納隆至	都井岬の半野生馬におけるにおいづけ行動の研究
松村秀一	D4	加納隆至	スラウェシマカクの社会生態学的研究
橋本千絵	D4	加納隆至	ピグミーチンパンジーの母子間関係
河本敏男	D4	久保田競	頭頂連合野の入出力関係の研究
植木浩一郎	D3	久保田競	随意運動の発現機構の解明
小川秀司	D3	加納隆至	チベットマカクの社会行動
揚妻直樹	D3	加納隆至	ヤクシマザルの採食行動
花澤明俊	D2	久保田競	注意の神経機構
田中 香	D2	加納隆至	ニホンザルの採食行動の発達
松元健二	D1	久保田競	行動発現にはたす前頭眼窩回及び帯状回
			の役割についての神経生理学的研究
嶋田 誠	D1	庄武孝義	オナガザル属の進化の集団遺伝学的研究
田中正之	D1	小嶋祥三	チンパンジーにおける分類行動
金沢 創	D1	小嶋祥三	ヒト及びニホンザルの表情認知に関する実験的研究
			(休学中)
近藤あや子	M4	杉山幸丸	作業記憶課題遂行中のサルの前頭連合野におけるニューロン活動の解析
長谷川良平	M2	久保田競	霊長類における音声・聴覚の研究
橋瀬和秀	M2	小嶋祥三	チンパンジーの行動学的研究
山越 言	M2	杉山幸丸	霊長類類における遺伝子発現の研究
白石陽子	M2	竹中 修	ニホンザルにおける
栗田博之	M1	杉山幸丸	

母子間関係

山根 到	M1	久保田競	空間位置情報に基づいた運動発現機構の解析
宮本俊彦	M1	岩本光雄	下肢の運動と形態
奥千奈美	M1	岩本光雄	霊長類聴覚器官の機能と構造
岡本暁子	M1	杉山幸丸	チンパンジーにおける個体間関係の実験的研究
Gurja Belay	M1	庄武孝義	ニホンザルの遺伝的変異性

研究概要

小林 隆

都井岬の半野生馬の行動学的研究

ウマの排せつ物に対するにおいづけ行動に関して、観察および野外実験を行うことによって、においづけの機能を調べる。

松村秀一

ムーアマカクの社会行動

インドネシア・スラウェシ島においてムーアマカクの野外調査をおこない、社会行動の進化に影響する諸要因を明らかにする。

橋本千絵

チンパンジーの生態学的研究

ウガンダ・カリンズ森林に生息するチンパンジーの生態学的研究をおこなう。

揚妻直樹

霊長類の採食行動

霊長類の採食行動と食物環境・気象環境の関係を、野外での観察や実験を行って明らかにする。

植木浩一郎

単純視覚性反応時間課題における

GABA 抑制の役割

大脳皮質の情報処理機構と伝達物質の役割を解明するため、神経細胞の活動の記録を行ったり、モデルの計算機シミュレーションなどを行った。

小川秀司

霊長類の社会行動の理論的研究

霊長類の利他行動と攻撃的行動の互惠性を、ゲーム理論に基づいてシュミレーションを行い、こうした行動の進化的安定性を検討した。

花澤明俊

運動視における MT 野神経細胞の役割

運動視覚刺激の線形、非線形成分及び運動知覚とアカゲザル脳 MT 野神経細胞活動の関係を調べ、運動視知覚形成の脳内過程を調べた。

田中 香

野生霊長類の採食生態

ニホンザル及びテナガザルにおいて、採食行動と群れの形態との関連を調査し、霊長類の群れの機能について考察する。

嶋田 誠

多座位電気泳動法におけるヒト上科
系統樹の評価

多座位電気泳動法により種系統樹を再構築する際の仮定事項を検討することにより、変異の維持機構と進化史との関連を調べる。

田中正之

チンパンジーによる分類行動

チンパンジーに「分類」行動を学習させ、新奇状況での自発的分类傾向から、彼らが世界をどのようなカテゴリに分けているかを調べる。

金沢 創

ニホンザルの表情認知

視覚的探索課題をサルに行わせ、顔のどの部分の動きが「表情」を作り出すかを調べた。そしてその進化とコミュニケーションの理論的側面について考察する。

松元健二

前頭眼窩皮質における高次視覚情報処理機構

顔や食べ物などの写真の再現記憶課題遂行時の前頭眼窩回ニューロン活動を解析し、視覚的な認知や記憶との関わりを考察する。

橋彌和秀

霊長類における視聴覚の統合

チンパンジーとニホンザルについて、視聴覚間のクロスモーダルな情報処理の特性を実験的に検討し、ヒトとの比較をおこなう。

白石陽子

サル大脳皮質前頭連合野における
特異的遺伝子発現の探索

サブトラクション法により作成した前頭連合野特異的遺伝子の cDNA ライブラリーを用いて、霊長類大脳皮質の進化を検討する。

長谷川良平

作業記憶課題遂行中のサルの前頭連合野
におけるニューロン活動の解析

作業記憶の脳内機構を調べるため、眼球運動を用いた遅延見本合わせ課題遂行中のサルの前頭連合野から単一ニューロン活動を記録する。

山越 言

野生チンパンジーの社会学的研究

ギニア共和国ボソウに生息するチンパンジー群を対象に、群内の個体間関係、近隣群との群間関係を研究する。

岡本暁子

飼育下チンパンジーの出会い場面における
社会交渉

屋外放飼場のチンパンジーを対象に、出会い場面に特徴的な社会交渉の機能と意味を、実験的操作を加えて観察することにより明らかにする。

栗田博之

ニホンザルにおける母子間関係

ニホンザルのオトナメスを対象として、その 0 歳子との関係について調べ、母親の順位や出産経験、および子の性による差異の有無を検討する。

奥千奈美

霊長類聴覚器官の機能と形態

霊長類の聴覚器官を比較解剖学的視点より形態描写を行い、あわせて心理物理学・認知心理学の成果を利用することで聴覚器官の機能の進化上の意義を解明する。

山根 到

短期記憶にもとづいた運動の発現機構の解明
短期記憶から運動へ、運動発現機構の解明のため、遅延リーチング課題遂行中のサルの運動前野からニューロン活動を記録解析する。

宮本俊彦

ニホンザル下肢骨の加齢変化について
ニホンザルの下肢骨が加齢とともに変化することを、年齢のわかっている標本を用いた計測により明らかにした。

Gurja Belay

Genetic variability of Japanese macaques
(*Macaca fuscata*)
The genetic variability of Japanese Macaques inhabiting in different localities of Japan are screened electrophoretically, using structural blood protein loci as a genetic marker, in comparison within and between the troops.

総 説

一和文一

- 1) 金沢 創(1993):表情の起源 顔と心ー顔の心理学入門ー吉川左紀子他編 サイエンス社 p.27-45.
- 2) 金沢 創(1994):動物は泣くか?ー「涙」の進化論ー朝日1テーママガジン なぜ泣くの!? 朝日新聞社 p.100-106.

論 文

一和文一

- 1) 橋本千絵(1993):ウガンダ共和国カリンズ森林のチンパンジー. 霊長類研究,9(2), 113-118.
- 2) 杉浦秀樹・揚妻直樹・田中俊明(1993):屋久島における野生ニホンザルへの餌付け. 霊長類研究. 9(3): 225-233.
- 3) 田中正之(1993):チンパンジーによる分類行動. 霊長類研究 9(2), 79-88.
- 4) 山越 言・松沢哲郎(1993):コートジボアール・ニンバ保護区のチンパンジー. 霊長類研究9(1), 13-18.

報告・その他

一和文一

- 1) 揚妻直樹(1993):ヤクザル生息実態調査報告. 第5章これからの猿害対策に向けて. 鹿児島大学農学部鳥獣害研究会編 pp. 173-175.
- 2) 松村秀一(1993):スラウェシのムーアモンキーの社会. モンキー,247, 18-23.
- 3) 奥千奈美・片山一道(1994):愛媛県波方町江口貝塚で出土した縄文人骨. 江口貝塚IIー縄文後晩期編ー愛媛大学法文学部考古学研究報告第3冊 pp. 129-134.
- 4) 佐川正敏・奥千奈美(1993):中国旧石器時代遺跡出土哺乳動物化石一覧. 平成4年度文部省科学研究費補助金「重点領域研究」「先史モンゴロイド集団の拡散と適応戦略」A-01班「拡散集団の適応戦略」研究成果報告書(研究課題番号04208111)

学会発表

一英文一

- 1) Hanazawa, A. (1993): Motion perception for composite sine-wave grating patterns in rhesus monkeys: motion from feature and luminance. Neuroscience Research, Suppl. 18
- 2) Hanazawa, A., Mikami, A. and Kubota, K. (1993): Effects of iontophoretically applied adrenergic receptor antagonists on visual responses of V4 neurons in rhesus monkeys. Jpn. J. Physiol., Vol. 43, Suppl. 2
- 3) Yamakoshi, Gen & Matsuzawa, Tetsuro A Field Experiment In Cultural Transmission Between Groups Of Wild Chimpanzees At Bossou, Guinea. XXIII International Ethological Conference.

一和文一

- 1) 揚妻直樹(1993):屋久島の自然をめぐる現在の状況.平成5年度京都大学霊長類研究所共同利用研究会・第10回ニホンザルの現況研究会.
- 2) 揚妻直樹(1993):野生動物保護を目的とした植生回復方法.平成5年度京都大学霊長類研究所共同利用研究会・屋久島のニホンザル地域個体群の構造と保存.
- 3) 揚妻直樹(1994):ヤクシマザル隣接群の採食・遊動様式の比較.第41回日本生態学会講演要

- 旨集,133.
- 4) 揚妻直樹・東英夫・後藤俊二(1993):ラジオテレメトリーによるニホンザルの体温測定. 第9回日本霊長類学会, 霊長類研究, 9: 283.
 - 5) 揚妻直樹・Hill, D. A.(1993):ヤマモモ果実の豊作年と凶作年におけるヤクシマザルの採食遊動様式の変化.第40回日本生態学会講演要旨集. 136.
 - 6) 安藤一郎・澤口俊之・山根 到・久保田競(1993):前頭前野へのGABA_B阻害剤注入による遅延反応課題の障害. 第70回日本生理学会大会予稿集
 - 7) 花澤明俊(1993):アカゲザルにおける輝度に依存しない運動視の存在とその時空間特性. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9(3): 301
 - 8) 花澤明俊(1993):アカゲザルの視覚系に存在する2種類の運動検出機構. 日本視覚学会1993年夏期研究会. VISION, 5(3): 164
 - 9) 長谷川良平(1993):眼球運動遅延合わせ課題遂行中のサル前頭連合野におけるサッカード方向に関与したニューロン活動の解析. 第17回日本神経科学大会抄録集
 - 10) 橋本千絵(1993):ウガンダ共和国カリンズ森林におけるチンパンジーの生態学的研究(予報).第9回日本霊長類学会大会.霊長類研究, 9(3):261.
 - 11) 橋彌和秀・小嶋祥三(1993):見本合わせ課題を用いたチンパンジーの聴覚記憶の実験的検討. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 9(3),p.293
 - 12) 橋彌和秀・西垣順子・山崎貴世・筒井美加・三枚奈穂・宮原道子・西尾 新(1994):飼育下チンパンジーにおける生後1年までの行動目録. 日本発達心理学会第5回大会.発表論文集 p. 226.
 - 13) 橋彌和秀・田辺雄一・棚橋 篤・堀込亮意(1994):人工飼育下のチンパンジー乳幼児の行動発達. 第38回プリマテス研究会抄録集.
 - 14) 金沢 創(1993):ヒトとサルの表情認知に関する比較心理学的研究. 日本心理学会第57回大会. 発表論文集 p521.
 - 15) 小林隆(1994):都井岬の半野生馬におけるにおいづけ行動.第41回日本生態学会講演要旨集. 71.
 - 16) 松元健二・中村克樹・三上章允・久保田競(1993):さまざまな写真刺激に対するサル前頭眼窩回ニューロンの応答. 第70回日本生理学会大会予稿集
 - 17) 松元健二・中村克樹・三上章允・久保田競(1993):視覚再認記憶課題の遅延期におけるサル前頭眼窩皮質ニューロンの活動. 第17回日本神経科学大会抄録集
 - 18) 松沢哲郎・田中正之(1994):ヒトとチンパンジーの指さしコミュニケーションの形成. 日本発達心理学会第5回大会. 発表論文集 p230.
 - 19) 松沢哲郎・山越 言(1993):コートジボアール・ニンバ保護区のチンパンジーの道具使用. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 9(3),p 298.
 - 20) 宮本俊彦(1993):ニホンザル下肢骨の加齢変化について.第47回日本人類学会日本民族学会連合大会, 研究発表抄録 p.81.
 - 21) 小川秀司(1993):霊長類におけるしかえしシステムの進化. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9: p.296.
 - 22) 小川秀司(1993):霊長類におけるしかえしシステムと弱虫ゲームにおけるTFT戦略. 日本動物行動学会第12回大会. 発表要旨集, P.24.
 - 23) 岡本暁子(1994):ハスノハカシパン(*Scaphech inus mirabilis*)の局所的生息と底質の粒度との関係. 第41回日本生態学会. 講演要旨集, p 144
 - 24) 嶋田誠・野澤謙・川本芳・庄武孝義・三輪宣勝(1993):多座位電気泳動法によるヒト上科系統樹の評価. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9: 290
 - 25) 白石陽子・橋彌和秀・山越言・長谷川良平(1993):マカクにおける行動収束過程に関する実験的研究. 第9回日本霊長類学会大会. p.293
 - 26) 白石陽子・竹中修(1993):マカカ属サル大脳皮質前頭連合野における特異発現遺伝子の探索.第66回日本生化学会.
 - 27) 杉浦秀樹・揚妻直樹・田中俊明(1993):西部林道におけるヤクシマザルの餌付きの実態. 平成5年度京都大学霊長類研究所共同利用研究会・屋久島のニホンザル地域個体群の構造

と保存.

- 28) 田中 香 (1993): 野生ニホンザルの採食場所選択とその発達. 第40回日本生態学会大会. 講演要旨集, P. 133.
- 29) 田中 香 (1993): 野生ニホンザルの採食行動の群間比較. 日本動物行動学会第12回大会. 発表要旨集, P. 35.
- 30) 田中正之(1993): チンパンジーにおける分類行動. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 9: p. 270.
- 31) 田中正之(1993): チンパンジーによる「分類」とその般化. 日本動物心理学会第53回大会. 予稿集 p10.
- 32) 田中正之(1993): チンパンジーによる機能的カテゴリの形成とその般化. 日本心理学会第57回大会. 発表論文集 p545.
- 33) 田中正之・外岡利佳子(1994): ヒトの子どもとチンパンジーにおける自発的分類の比較. 日本発達心理学会第5回大会. 発表論文集 p229.
- 34) 植木浩一郎(1993): 同期的振動現象を記述する非線形微分方程式. 第17回日本神経科学大会抄録集
- 35) 山越 言 (1993): 「文化」を運ぶメス・ギニア, コートジボアールの野生チンパンジー調査報告. 第30回日本アフリカ学会大会.
- 36) 山越 言・松沢哲郎 (1993): ボッソウのチンパンジーによる石を使ったコウラの実割り行動. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 9(3), p 264.

外国人研究員

氏名	受入教官	研究課題	招へい期間
Iver H. Iversen	松沢哲郎	チンパンジーにおける刺激等価性の研究	4. 6.24 ～ 5. 4.23

招へい外国人学者

氏名	受入教官	研究課題	招へい期間
Iver H. Iversen	松沢哲郎	チンパンジーにおける刺激等価性の研究	5. 4.24 ～ 5. 8.18

外国人共同研究者

氏名	受入教官	研究課題	招へい期間
Vera Walraven	松沢哲郎	チンパンジーにおける認知機能の研究	5. 6. 8 ～ 5. 6.28
Bambang Suryobroto	竹中 修	インドネシア国スラウェシ島マカカ属サルの子系統学	5. 6.18 ～ 5. 9.17
Vanessa Jane Hayes	杉山幸丸	霊長類, とくにニホンザルの行動・生態学的研究	6. 3.29 ～ 7. 3.28

研 修 員

氏名	受入教官	研修題目	研修期間
芝原総子	大澤秀行	性行動発現メカニズムの種間比較	5. 4. 1 ～ 6. 3.31
竹中晃子	竹中 修	カニクイザルの α -グロビン遺伝子領域に見出された未知プロセスト遺伝子について	5. 4. 1 ～ 6. 3.31
小高 泰	三上章允	前頭葉における情報処理機構	5. 5. 1 ～ 6. 3.31
瀬戸口 美恵子	加納隆至	愛知県北西部に生息するニホンリスの個体数及び年齢構成の調査	5. 8. 1 ～ 6. 3.31

日本学術振興会特別研究員

氏名	指導教官	研究課題	研修期間
日上耕司	松沢哲郎	霊長類における利他的行動の実験的分析	4. 4. 1 ～ 6. 3.31
上野吉一	小嶋祥三	フサオマキザルにおける嗅覚コミュニケーションの実験的分析	5. 4. 1 ～ 6. 2.28